

出題分析			
試験時間	120 分	配点	150 点
		大問数	1 題
分量 (昨年比較)	[減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>例年通り、A4 サイズで約 5 ページにわたる長文が題材となっている。読解量が非常に多く語彙レベルも高いが、論旨が一貫しているので比較的読みやすい。出題形式も昨年と同様で、空所補充が 3 問、下線部和訳が 2 問、内容説明が 2 問、自由英作文が 1 問という構成であった。100 字以上 120 字以内の内容説明は、要点を正確につかむ力と日本語による的確な表現力が必要である。自由英作文は今年もテーマが抽象的であり、解答を作成するのに苦労したのではないかと思われる。全体としての難易度は昨年と同程度と言ってよいだろう。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	A. 長文読解問題 「言語が思考に及ぼす影響」	1 および 2 の空所補充は、前後で述べられている内容を丁寧に読めば解答に迷うことはないだろう。3 の内容説明 (100 字以上 120 字以内) は、解答に含めたい内容が本文中に散在しており、制限字数内に過不足なくまとめるのは容易ではない。4 の下線部和訳は、語彙・文構造ともに特に難しいところはない。5 の下線部和訳は、have turned up missing をどのように訳出すべきかが悩ましい。6 の空所補充は、1・2 の空所補充と比べると解きにくい、消去法でも正解にたどり着くことはできる。7 の内容説明 (60 字以上 75 字以内) は、本文中にさまざまな具体例が挙げられているので、それほど苦労することはないだろう。	標準
	B. 自由英作文問題	「外国語を学ぶことによってあなたが得た、他の文化に関する最も重要な気づきは何か」という設問に答える。問われている内容が少々わかりにくいこともあり、制限時間内に clarity of content (内容の明確さ) という条件を満たす解答を作成するのは容易ではないだろう。	やや難

合格のための学習法

慶應義塾大学文学部の英語の特徴は、英文の長さ、記述問題の多さと難度の高さにある。日頃から多彩なジャンルの英文を読み、思考力を鍛えることを心がけたい。記述問題への対応力をつけるためには、[自力で解答を作成する] → [指導者に添削してもらい] → [修正点を踏まえてもう一度解答を作成する] という学習プロセスを繰り返すことが効果的である。また、2024年からは自由英作文が出題されている。大学入試に限らず、英語で表現する力を重視する傾向は年々強まっており、今後もこの出題形式は踏襲される可能性は高い。日本語と英語両方の記述力を養成することが肝要であろう。